

「TPPはこのまま交渉参加してしまうのですか？」

●皆さんからの質問（今週の質問はほとんどがTPPについてでした）

TPPはこのまま交渉参加してしまうのですか？

●西田昌司の答え

3月4日のテレビ朝日「ビートたけしのTVタックル」に出演することになりました。私はこのような番組の出演依頼をずっと断ってきました。バラエティー番組等に政治家が出てからかわれるようなことがあってはならないと思ってきたからです。しかし今回は盟友の藤井聡先生からの出演依頼がありましたので、TPPについて地上波で発言をして、広く国民にTPPの問題点を知ってもらおうと思います。本日収録したチャンネル桜のビデオレター（【西田昌司】自由貿易の罨に嵌るか、TPPから守るべき国益とは [桜H25/3/1]）で、TPP等の自由貿易は先進国にとってはメリットがないというお話をしました。ではどうすればよいのか、という疑問についてこれからお答えします。

アメリカは日本への輸出を増やして雇用を増やしたいという思いがあります。一方、日本は農業を始めとして守らなければならない産業がありますし、TPPで関税を撤廃してもGDPはそれほど増えずに大してメリットはありません。TPPで日米両国が共にメリットを享受することはないのです。では日本はどうすれば良いのでしょうか。その答えは「自分の国は自分で守る」以外にありません。防衛費を増強し、集団的自衛権の解釈を変えてそれを行使できるようにしなければなりません。兵力を増強する為にアメリカからF35等の兵器を購入すると、アメリカでは非常に多く雇用が生まれます。またアメリカは在日米軍の駐留経費を抑えることが出来ますし、沖縄からの海兵隊の撤兵にもつながってきます。このようにすれば中国に対する

抑止力を保つこともできますし、日本にとってもアメリカにとっても共にメリットがあります。このようなことを安倍総理にもお話したことがありますし、安倍総理もよくわかっておられます。しかし問題はアメリカがこれを認めるかどうかです。

戦後の六十数年間に日本が続けてきた体制は、日米同盟とは言いつつもアメリカの核の傘の下での占領状態の延長線上の体制でした。この体制はアメリカにとって都合の良いものでした。アメリカは日本をアメリカの領土の一部として扱いました。私がこれまでにずっと主張しているのは、この戦後体制から脱却をして自立・自存しようということです。今回の日米首脳会談を機にこのような決断をすべきだと思っています。しかし日本がそういった提案をしても、アメリカは日本の独立を認めがっていないという可能性は十分にあります。安倍総理はこのようなことを理解されていると思いますし、それゆえに日米首脳会談後の内外記者会見において、冒頭で集団的自衛権・防衛費増額などについて大統領としっかりと会談したとおっしゃったのだと思います。またTPPに関しましては、聖域なき関税撤廃が前提ではないことを確認したとおっしゃっています。安倍総理は日米首脳会談の交渉内容について全てをお話しすることは当然できません。私の想像するところでは、会談中に安倍総理は今述べたような本筋の話をされたのだと思います。しかしアメリカがそれを認めないのであればTPP交渉参加の議論にもなったことでしょう。

このように安倍総理は非常に難しい判断をされています。民主党政権のように諸手を挙げて賛成といった呑気な姿勢では全くありません。しかし日本国民が今述べたようなことを全く理解していません。今回「ビートたけしのTVタックル」に出演するのは、国民にこのことを知らせるためです。「自分の国は自分で守る」という選択肢がなければ、TPPについてのアメリカとのやり取りも非常に苦しいものになります。またアメリカが日本の自主防衛を認めない可能性も非常に高いのです。どちらの道に進んでも茨の道なのです。国民がこのことをしっかりと理解して「いつまでもアメリカに追従せずに、自主防衛もしっかりとやっていかなければならない」といった声が大

きくなって、そのことがアメリカに伝われば、安倍総理への追い風になります。TPPは安全保障に関わる問題です。貿易面に関しては、TPPに参加しても大したメリットはありません。(しかしグローバリズムの中では自由貿易の全てを否定することもできませんが。)進むも戻るも茨の道だということをして是非ご理解していただきたいと思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>